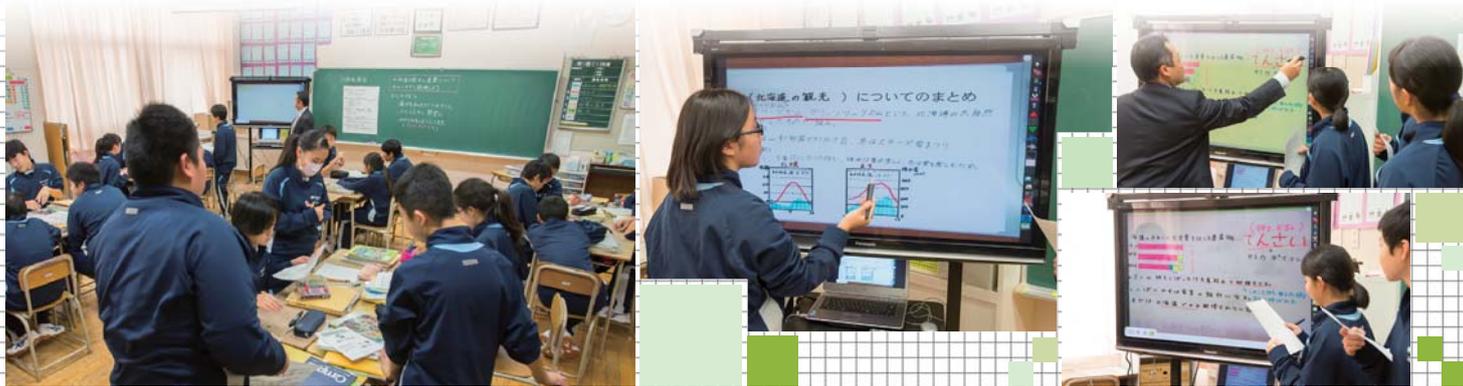


導入事例
てれたっち

意欲向上、興味喚起にとどまらず、 学んだ知識を定着させるツールとして、「てれたっち」を活用!



青森市郊外の自然に囲まれた青森市立荒川中学校は、地域で活躍できる人材作りを目標に、教育のICT化にも積極的に取り組まれています。同校では興味喚起や意欲の向上のみならず、実際に学習効果を出すことを目標に「てれたっち」の活用を模索されています。研修主任として社会科を担当される工藤雅人先生にお話を伺いました。
※先生のご紹介、学校での設置状況などは取材当時のものです。



導入商品
外付け型タッチ化ユニット
「てれたっち」
DA-TOUCH / WB

※ディスプレイは別売りです。

学んだことを知識として定着させ、学力の向上を図るために

「てれたっち」の導入前に、課題に感じていたことがありましたらお聞かせください。

工藤先生:本校では、今回の「てれたっち」が初めての電子黒板の導入となります。既存の大型ディスプレイは動画の再生、実物投影機との連携、資料の表示などに利用していましたが、課題も感じていました。視覚的な授業はたしかに興味喚起の効果は大きいですが、受験を控えた中学生の授業ですから、ただ興味を引くだけでなく、もう一つ上の活用を行いたかったのです。学んだことを知識として定着させ、学力の向上を図る方法を模索していました。そんな折に「てれたっち」が導入され、まさに課題に応える電子黒板だと実感しました。

学習内容の定着のために、授業で「てれたっち」をどのように活用されているのですか。

工藤先生:実物投影機を連携し、プレゼンテーション形式でのグループワークの発表によく使っています。学んだ内容をノートなどにまとめ、「てれたっち」の画面でクラス全員に共有し、それに対してタッチペンで実際に書き込みを入れながら説明することは、知識の定着に非常に効果があると感じます。さらに、生徒の書き込みごと画面を保存し、次の授業で振り返ります。思考の軌跡を保存し、それを後から呼び起こすことで、覚えが断然よくなります。ただ漫然と話を聞いたり、コンテンツを視聴したりするだけではこうはいきません。



書き込みながら説明します

せっかくのツールをもっと活かしたい!「てれたっち」で幅広いスキルを養う

生徒の皆さんのプレゼンテーションスキル向上のために「てれたっち」を活用されているとのことですが、具体的に教えてください。

工藤先生:せっかくいいツールがあるので、プレゼンテーションの練習にもなればと思い、生徒には積極的に発表を行わせています。たとえば地理では、北海道について調査してプレゼンテーションを行いました。グループごとに産業、歴史、観光などとテーマを決めて発表を行います。生徒が手書きで作成した資料を実物投影機で「てれたっち」に取り込み、共有しました。操作については、私がお手本をアドバイスしながら教えていますが、皆あつという間に使いこなします。せっかく使いやすい「てれたっち」がありますので、どんどん体験してほしいですね。社会に出たらプレゼンテーションのスキルを当たり前のように求められる時代ですから、この機会に慣れておくのもいいでしょう。



グループワークでの発表

「てれたっち」により、既存資産の活用もさらに進んでいます

授業の準備など、先生の業務で変わった点はありますか。

工藤先生:従来も実物投影機と大型ディスプレイはありましたが、知識の定着という観点からは、どのツールにもそれほど価値を感じていませんでした。「てれたっち」により、書き込みや履歴の保存ができるようになったことで、既存資産にも価値を見出せるようになりました。

今後、「てれたっち」でやってみたいことがありましたら教えてください。

工藤先生:「てれたっち」とプロジェクターの連携ですね。全校集会などで活用できないかと考えています。「てれたっち」のディスプレイをマルチモニタのように大型プロジェクターに投影して、より多くの人数で共有したいです。新年度のオリエンテーションなどで使ってみようと思っています。「てれたっち」がもっと気軽に利用できる環境が整えば、活用もさらに進むと思います。生徒たちが学力を身につけるための現実的な手段として、こうしたICT環境が当たり前のものとして定着する日が近いうちに実現することに期待しています。



取材にご協力いただいた先生



青森市立荒川中学校
工藤 雅人 先生



CLIENT DATA

導入学校 / 青森市立荒川中学校
所在地 / 青森県青森市
設立 / 1947年